



下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

児童支援専任 納屋 佳典

梅雨の晴れ間に夏の気配が感じられる季節になりました。来週から7月に入り、夏休みまであと一か月です。子どもたちはどんな夏休みを過ごそうかと楽しみにしているようです。

最近書店で本を選んでいると「心理的安全性」と書かれた本を目にし手にとることがありました。心理的安全性とは、グーグルが有名にした言葉だそうです。ビジネスでも使われる言葉ですが、教育にも重要なファクターとなります。心理的安全性を確保するためには「否定されない環境」を作ることが肝要です。その定義の中に「不安や恥ずかしさを感じることなく、リスクある行動をとることができるか」が含まれるそうです。実は教室の中は不安でいっぱいです。「手を挙げて間違えたらどうしよう」「変なこと言ってないかな?」「何かいやなこと言われるかも・・・」などなど、多くの不安を抱えている子どもたちもいるのではないのでしょうか。そのような状況は、心理的安全性の反対となり、「心理的危険」となります。心理的危険の状態になると

- ・意識したことに注意をむけられない
- ・不適切な行動を抑制できない。
- ・感情を抑えられなくなる

などが挙げられるそうです。

そういった子どもたちの状態をできるだけ減らし、心理的安全性を高めていくためにも、普段からの支援を心がけなければいけません。では、こういった状況が心理的安全性を高めるのか。キーワードで言えば、「失敗しても大丈夫だよ。」「失敗から学ぼう。」などのワードです。大人が基本的なスタンスとして、上記の2点をもって接することで、子どもたちの心理的安全性は高まり、自立に向かってすすめるそうです。ただ、いつも安心安全な状況や場所が作れるかということ、難しい面もあります。学校や社会でも多くのトラブルがあるからです。そういったトラブルや環境の変化などからくるストレスに対応していかないとはいけません。ストレスに強い脳を作っていくことも、子どもの成長のために必要です。そのため心理的安全状態を自ら作れることが得意な脳を育てていくことも教育の役割となります。そのような状況を少しでも作れるように、今年度から月に1回「ソーシャルスキル」の学習に取り組んでいます。ソーシャルスキルとは社会の中で他人と交わり、人と共に生活していくために必要な社会的な技能のことです。これらを学び、生活に活かしていくことでお互いが気持ちよく生活できるように支援をすすめています。

下和泉小学校では、心理的安全性を高める声かけ、支援、ソーシャルスキルなどを活用した友達との接し方などを用い、子どもたちが自ら心理的安全性を高められるように今後とも教育活動に新しい考えなどを取り入れていけたらと思います。保護者の方も子どもたちが心理的安全な状況で過ごしたうえで、日々のストレスに強い脳を作っていくように、「失敗しても大丈夫、そこから学んでいこう。」といった声かけや、ソーシャルスキルとして「こういった接し方がよかったかな」などご家庭で一緒に考える機会などを作っていたら子どもの成長の一助になるかと思っています。どうぞよろしく願いいたします。(参考文献：心理的安全性の作り方、自立する子の育て方)